

令和7年度 学校評価書

学校名： 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から		
1	学校教育目標	「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。	自己評価	学校関係者評価委員会から		
2	重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保 ①部長会や掲示物等を利用し、一人ひとりが活躍する部活動になるよう指導する。年度末アンケートで、満足度80%を超える。【生徒課】 【学校説明】 全国大会での活躍と日頃の生き生きとした活動が目立ち、学校活性化に繋がっている。 ②適切な帰宅時間を順守できるよう、学年部・部活動と連携し、家庭学習時間を確保していく。「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時30分までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年度並みとなることを目指す。【教務課】 【学校説明】 7月および11月に帰宅時間調査を実施した。その結果、午後7時30分までに学校敷地外へ退出した生徒の割合は、7月92.3%、11月92.1%となり、概ね例年と同程度であった。今後も部活動等と連携しながら、学習時間の確保に努めていく。 ③教科を超えた授業研究会を年間2回開催し、学校全体で共有する。また、授業評価アンケートを通して生徒に「主体性・視野の広さ・自己有用感」の総括的な自己評価を促す。授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、全体の80%を超えることを目指す。【研修課】 【学校説明】 第1回では、年度当初の研修で共有した目指す生徒像として位置付けた3つの力の育成を通して自律的に学ぶ学習者を育成する取組について確認した。第2回では、その取組を各教科において具体化し、授業実践を行った。その結果、授業評価アンケートでは、主体性88.5%、視野の広さ79.1%、自己有用感72.9%の生徒が「身に付いた」と回答した。自己有用感は長期的に醸成される力であるため、短期間では数値として表れにくいと考えられる。	A	A 様々な経験を積ませることで自己理解を深めさせるようにしていただきたい。アンケートの実施時期を検討してもよいと思う。 A 生徒達が「時間を守る」、「ルールを守る」等、目標達成に向けて努力することにより、自律性を育成していただきたい。 A 授業研究等で、教員の指導力向上につなげ、適時の授業評価により生徒の学びに向かう意識を高めさせていただきたい。		
		(2)地域や保護者に関わった学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進 ①PTA会員や役員と連携してPTA活動がより活発になるようにして、生徒が生き生きと学校生活を送ることができるようにする。情報課と連携して、ホームページでPTA活動の情報を積極的に配信する。PTA地区会を通して、学校と保護者の連携を深める。PTA研修会の参加率5%程度増加させる。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載を5回以上行う。PTA総会等の保護者が参加する行事を実施する。【総務課】 【学校説明】 昨年と比べ、PTA研修会の参加率は向上しなかったものの、内容については関心を持ってもらえるものであったため、今後も取組を継続していきたい。ホームページへの記事掲載は少数にとどまったが、今後はInstagramを活用することで、PTA活動の発信を充実させていきたい。 ②学校公開ポスター、学校案内の円滑な作成を実施する。学校ホームページを利用した適切な情報発信をする。学校公開ポスターは5月からの中学校訪問に間に合うよう作成する。学校案内は8月完成を目指す。Webページは年間平均閲覧数で1,000件/日を目指す。Instagramの学校公式アカウントを運営し、アカウント運営に必要なノウハウをICTエキスパートの助言を得ながら整理・検討し、フォロワー数2,000名を目指す。【情報課】 【学校説明】 学校公開ポスター、学校案内は計画的に作成できた。Webページは年間平均閲覧数が約800件/日であった。今後、学校案内、Webページ共に一新する。令和8年1月時点でフォロワー数は2,242名となり、目標を達成した。ICTエキスパートからの助言を基に、良好なスタートを切ることができた。また、生徒や保護者からの反応も良好で、生徒の帰属意識の向上が見られた。	B		B 生徒の取組を広報することで、中学生やその保護者の理解を深めるとともに、学校・家庭・地域の連携・協働により、充実した教育環境を維持してほしい。PTA研修会を学校行事と合わせて開催するなどの工夫をしていただきたい。また、オンラインを活用した研修会の開催について検討していただきたい。 A 市高生の様子を地域に広く伝えるとともに、学校と生徒・保護者間の双方向の情報のやり取りで、学校・家庭・地域の連携・協働を充実させていただきたい。	
		(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。 ①勤務時間が適正であるとする教員が50%以上。【管理職】 【学校説明】 昨年度に引き続き朝の課外授業の開講日数等を削減することで教職員の負担感が軽減した。加えて、時間外勤務に対する振替等で過剰な勤務時間の適性を図ることができた。年度末面談で勤務時間が適正であると回答した教員が90.2%であった。	A			A 人権・コンプライアンス等、率先垂範としてワークライフバランスの向上も図っていただきたい。

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
1	教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成【市共通項目1】 ①朝課外、3年生の各種課外、2年生勉強合宿、1年生夏季通学学習会等を企画運営し、生徒の学力伸長を図る。普通科一般クラス、特進クラス、科学探究科に対して、朝の課外授業を適切に実施する。また模試を最大限活用するための指導方法を模索する。模試の事前準備として、過去問題冊子とClassiを活用する。【進路課】 【学校説明】 1、2年生は週3回、特進クラスは必修で、普通クラスと科学探究科は希望制で朝の課外授業を実施した。特進クラスは11月の模試において、普通科一般クラスに比べ平均偏差値で1年生は6ポイント、2年生は4ポイント上回る結果となった。3年生に対しては例年通り、朝課外・放課後課外授業を行うことができた。この後は2月からも特別補講を実施する予定である。 ②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 学習実態の把握や生徒面談の実施、部活動ガイドラインの遵守を徹底するとともに、家庭学習時間の確保に向けて、学年・担任および部活動顧問が連携して支援を行う。さらに、部活動を通して、人間性・自主性・社会性ならびに個性や能力の伸長を図る。部活動と学習時間を合わせ、1日5時間を目指す。【1年部】 学習実態の把握や生徒面談の実施、部活動ガイドラインの遵守等を通して、家庭学習時間の確保に向け、学年・担任および副担任と部活動顧問が連携して指導を行う。また、課外授業、勉強合宿、模擬試験等について、円滑な運営と指導体制の確立を図る。家庭学習は、平日2時間、休日5時間以上を目標とする。【2年部】 部活動と学習の両立(学習+部活動=5時間)を引退前から促し、部活動引退後は早期に学習へ気持ちを切り替えられるよう支援する。授業に意欲的に取り組ませるとともに、課外への積極的な参加や放課後の自学自習を促す。また、HR活動等の時間を有効に活用し、HR正副担任による継続的な面談を実施する。さらに、生徒の目標設定の支援を行い、受験情報を提供することで視野を広げ、最後まで粘り強く受験に取り組ませる。課外活動への生徒の参加を促進し、参加人数の増加を図る。国公立大学合格者数150名以上を目標とする。【3年部】 【学校説明】 (1年部)課題をこなすことに追われ、+αの学習に取り組めていない生徒が多い。また、家庭学習時間も例年より少なく、平日に1時間未満の生徒も見られる。一方で、成績優秀者は部活動と学習を良好に両立させている。 (2年部)部活動と家庭学習を合わせて5時間とする目標は、おおむね達成できたと考えられるが、学習時間の確保が十分にできていない生徒も多い。一方、模試の結果からは、学力が着実に身に付いてきていることが確認できる。また、担任によるきめ細かな面談を通して、生徒一人ひとりの進路に対する意識も大きく高まってきている。 (3年部)落ち着いた切り替え期を過ごすことができた。朝課外の希望参加者(特進クラス以外)は70~80名で、延べ人数は216名であった。放課後課外については、1学期はターム制で実施し、回を追うごとに参加者が増加し、最大で延べ200名が参加した。2学期は曜日固定制とし、延べ487名が参加した。夏季課外は前期に延べ1,037名、後期に延べ311名が参加した。例年より自習室の利用者が多く、座席はおおむね9割が埋まる状況であった。また、担任・副担任が頻りに面談を行い、HR活動は2人体制で実施することができた。国公立大学志望者数は例年並みであり、共通テスト参加者数は微増した。 ③学習履歴を蓄積し、情報を適切に共有する体制を整備するため、Classi等を利用して、学習履歴を適切に共有する。また、新科目に対する指導を継続、検証していくことで、共通テストの新科目に対応できる体制の充実を図る。【教務課】 【学校説明】 定期テストごとに学習履歴と成果を配信する取組が定着した。また、新課程に基づく指導についても、全体として定着が進んでいる。学習成果が生徒の主体的な学習につながるよう、継続して検討する。	B	B 生徒の能力、興味・関心等に対応した個に応じた指導とともに、機会あるごとに「なぜ学ぶのか」等の動機付けをお願いしたい。 A 生徒にとって、この授業で何を学び、何を身に付けるのかを事前に提示することで、より深い学びに繋がっていただきたい。生徒一人ひとりの「今よりも良くなり、成長したい」という思いを引き出し、将来、自分はどうかあるべきか、志をもたせていただきたい。 A 学習履歴で意欲の向上につなげ、学びの状況を捉えることで指導方法を揃えていただきたい。 A 読書で視野を広げ、自分とは異なるものの見方や考え方に触れることは、思考力、判断力、表現力を伸ばす上で不可欠であると考えられる。図書委員の展示方法に工夫がみられる。	

		⑤海外語学研修や海外から訪れる高校生との交流会を企画・運営する。また、本校生徒が海外へ交流事業に参加する際には事前・事後指導を行う。事後アンケートを行い、それぞれのプログラムについて、参加者の80%が満足する。【研修課】	A		様々な研修や交流活動を通して、日本とは異なる風土、文化等、視野を広げるために、多くの生徒に経験させていきたい。
	(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	①日常から、全職員でこまめな道徳教育、人権意識指導を行う。生徒課指導件数を5件未満にする。【生徒課】 【学校説明】 海外語学研修を、言語習得にとどまらず、異文化コミュニケーションを通して壁や失敗を乗り越え、自身の殻を破ることを重視したプログラムとして企画した。事前には、静岡市主催のHub Student Meeting 2025に参加し、オンラインで海外の高校生と地域課題について意見交換を行った。その結果、参加生徒の満足度は100%となった。	B		学びの場である学校は社会で最も安全・安心な場であるべきであり、人権はその礎である。道徳教育は大変難しいと思うが、常に人を思いやる気持ちの醸成が必要である。
	(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	①校則の見直しを生徒会主導で行う。2学期の生徒大会で承認された後、全生徒が内容を理解し、順守率80%を超える。【生徒課】 【学校説明】 今年度中に、生徒会が校則の見直しを行う予定である。	B		生徒達が主体的に校則を考え、ルールを守る意識（法令順守）を高めていただきたい。
2 生徒指導	(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】	①日常的に全職員で、いじめは絶対に許されない行為であることを指導するとともに、何がいじめに該当するのかを随時確認し、いじめ件数を0件にすることを旨とする。【生徒課】 【学校説明】 いじめは3件発生し、いずれもSNS上で起こったものであった。発見が難しい事案であったと考えられるが、今後は日常の指導を一層徹底していきたい。 ②生徒が校内の人間関係について、安心して職員に相談できる体制を整える。【教育相談室】 【学校説明】 保健講座では、講演の中で自身を尊重することの大切さを伝えることができた。また、相談室だよりや保健だよりを月1回発行して相談室の利用を呼び掛け、生徒の困りごとや、保護者の子どもに関する悩みなどに対応することができた。	B		人権尊重の精神は、平和や、より良い社会への礎であることから、きめ細やかな対応をしていただきたい。
			A		生徒一人ひとりを守るという意思のもと、今後も教職員・保護者・関係機関等が連携して、きめ細やかな対応をしていただきたい。
3 進路指導	(1)進路指導の充実	①学習習慣の確立・定着を支援するため、年度当初に5教科で初期指導を行うとともに、全学年で学習時間調査を毎日実施し、習慣の定着を図る。また大学による出張講義や職場体験、キャリア講演会等により、自らの進むべき分野について考える機会を提供し、15以上の大学による講義・説明会を実施する。【進路課】 【学校説明】 新入生に対し教科初期指導を行うとともに、学習時間調査を行った。6月のアンケートでは5割以上の生徒が平日に1時間以上、休日に2時間30分以上の学習時間を確保することができた。1年間に述べ28名の大学の講師による講義を行い、1、2年生は最低2つの講義を受講することができた。 ②各学年、年間5回以上進路だよりを発行し、Classi配信等による進路情報の提供を充実させる。また、各種研究会へ多くの教員に参加してもらい、最新の入試情報を生徒へ還元できるようにする。3年部職員は年間2回以上、進路研究会に参加し、内容を全体に報告する。【進路課】 【学校説明】 各学年進路だよりやClassiの配信により進路情報の提供を行うことができた。各業者が行う春および秋の入試分析会に3年担任が参加し、進路検討会において情報共有を行った。今後、冬の入試分析会が予定されている。	B		社会の第一線で活躍している人との出会いは、自己を見つめ、将来を考える良い機会となることから、高い志を持たせるためにも適時に実施していただきたい。
			A		生徒に将来を見据えた高い目標を持たせながら、一人ひとりが持っている様々な力を湧き出させて伸ばしていただきたい。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】 【学校説明】 登下校の交通指導は定期的に行っているが、無事故無違反は達成できていない。今後も指導を継続していきたい。 ②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的点検及び不具合箇所の早期対応を図るとともに、老朽化した施設等の修繕を計画的に行い、生徒が安心して学校生活を送るための環境整備を行う。【事務室】 【学校説明】 日頃から施設や設備等について点検や整備等を行うとともに、不具合箇所の修繕・交換等を迅速に実施した、また、今年度は昨年度に続き校舎トイレの洋式化を実施し生徒が主に活動する中央館の洋式化が完了した。さらに体育館空調設備の設置や室内練習場外壁改修工事等も実施し、安心安全な環境整備に取り組むことができた。	B		社会の一員として、自他の安全や命を守ろうとする意識を育て4月から導入される青切符導入をきっかけに強く交通マナーの徹底をしていただきたい。
			A		学校は社会の中でも最も安全・安心な場であるべきであり、地域にとっても魅力ある施設であることから今後も環境整備を継続的に行っていただきたい。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	①生活習慣の確立に関する各学年部の取り組み 清々しい挨拶、品位ある身だしなみおよび正しい言葉遣いの習慣化を図るとともに、心身の健康管理と規則正しい生活習慣の確立、自他を尊重する心や態度の育成を図り、欠席・遅刻・早退の数を前年度の90%以下にする。いじめ0件にする。【1年部】 心身の健康管理および規則正しい生活習慣の確立を支援する。欠席・遅刻・早退の総数について、前年度比90%以下を目指す。また、年度末の皆勤者数について、前年度比150%以上を目標とする。【2年部】 挨拶の習慣化を図り、正しい身だしなみと言葉遣いで生活させるとともに、他者を尊重し、生活しやすい穏やかな学習環境を整える。毎日の学校生活（授業、廊下、各教室への入退室等）における状況を継続的に確認し、いじめ案件ゼロを目指す。【3年部】 【学校説明】 （1年部）本年度の1・2学期における欠席は753件、遅刻は168件、早退は86件であり、前年度（欠席774件、遅刻244件、早退120件）と比べ、いずれも減少傾向にある。全体として落ち着いた学校生活を送ることができた。また、いじめの認知件数は0件であった。 （2年部）2学期末時点の状況は、欠席631件、遅刻336件、早退98件であった。昨年度は欠席668件、遅刻198件、早退114件であり、目標を達成することはできなかった。一方で、欠席および早退については、長期欠席者が数名いたにもかかわらず減少している。また、皆勤者数は昨年度の88名に対し、本年度は91名と微増した。 （3年部）2学期末までの皆勤生徒は67人であった。身だしなみは概ね良好である。教職員の目が行き届かないSNS等によるいじめ案件があった。学校が介入できないものは、対象者の経過観察、全体への注意喚起に留まった。	B		時間を守り、自らの健康を維持する等、生活習慣の確立は、大きな展望をもって活躍したり、夢の実現に向けて計画し、実行したりする力の基礎である。また、決定や選択、目標に向かって諦めることなく努力する力の礎でもある。こうした自律性の育成のためにも、様々な機会を捉えて、生徒達の意識を高めていただきたい。
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①相談室だより、保健だより、学年集会、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。生徒の困りごとが、早い段階で相談されることが増える。【教育相談室】 【学校説明】 こころのアンケートで生徒から回答があったものや、教育相談室に持ち込まれた生徒の相談内容については、関係職員と共有し、丁寧に対応することができた。	A		相談室、保健室は生徒達にとって安全・安心な場所であればならない。教職員が連携して生徒・保護者の安心を支えていただきたい。
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】 【学校説明】 全教職員が、SSH事業をはじめとする各教育活動に組織的・協働的に取り組むことができた。加えて、研修課が中心となり様々な研修を全教職員が参加することで各教育活動に対する知見等を深めることができた。	A		指導の方向を揃えることで、学習意欲の向上に繋がっていただきたい。
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①教育課程検討委員会を軸に、生徒の資質・能力の育成を最大限に図るとともに、教育活動の質を高める持続可能な教育課程を検討する。学習評価の適切な運用を目指す。【教務課】 【学校説明】 現行の教育課程について検討した結果、次年度も継続することとした。また、観点別評価については、評価の精度向上に向け、引き続き検討していく。 ②年間9回の職員研修を実施し、主体性・視野の広さ・自己有用感の育成を実現していくための指導体制を確立する。また、授業改善のテーマを定め、一貫した授業改善を行い、教員の資質向上を図る。年度末に重点目標に対する自己評価を行った際に、評価「A」が全体の70%以上になるようにする。【研修課】 【学校説明】 年度当初の研修で3つの力と育成方針を共有し、自律的な学習者の育成をテーマに授業実践を行った結果、授業評価アンケートでは約80%の生徒が3つの力の向上を実感している。進路・教育相談・探究の各側面から指導の方向性も明確になった。今後は、教育活動全体の中で3つの力を発揮させるタイミングを教員全体で検討・共有していく必要がある。	A		評価結果を指導の改善に生かし、生徒の学習意欲の向上に繋がっていただきたい。
			B		生徒一人ひとりに高い目標・志を持たせながら、より深い学びにお繋がるよう、今後とも継続した研究・研修に取り組んでいただきたい。

9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①PTAが発行する『鴻志』『ふれあい』等の情報発信業務を、PTA役員と協力して適切に行う。広報関連の発行物を適切なタイミングで作成するとともに、内容の精選を進める。 【総務課】 【学校説明】 例年通り、計画的に作成できている。次年度も継続していきたい。	A
		②地区別集会や防災訓練等を通して、生徒・教職員の防災意識の向上や地域防災への関心を高める。また、地域防災訓練への参加者数を増やす。防火管理者（教頭）と協議のうえ、消火訓練など本校の防災管理計画を見直し、職員役割分担を確認する。地域防災訓練への参加者数を5%程度増加させる。校内防災訓練を3回以上実施する。 【総務課】 【学校説明】 防災訓練・火災訓練・防災講習を実施し、職員に対しては危機管理マニュアルによる周知を行った。その結果、地域防災訓練への参加者数は昨年度より41人増加し、5%の増加が見られた。次年度も本取組を継続していきたい。	A
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①安全点検を計画的に実施し、改善・修繕の担当箇所を明確にして連絡調整をする。安全点検が行われ、修繕等の対策がなされ改善される。教室のカーテンの修繕・新規購入や、机と椅子の安全点検と新規購入を計画的に行う。毎日の清掃活動を清掃分担の担当者が指導する。ゴミの分別を呼びかけ、分別が適切に行われる。 【保健環境課】 【学校説明】 清掃活動については、トイレ改修や校舎外壁の工事により例年とは異なる状況であったが、各清掃場所の担当の指示で適切に行われた。年間3回行われる学校施設安全点検や前後期の校内安全点検も適切に行われ、修繕の必要な物は事務室・用務員に連絡し対応した。	A
		②古紙リサイクルの推進及び可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底を図る。また、省エネについては、教室等のLED化を計画的に進めていく。 【事務室】 【学校説明】 「ごみの分別」については、徹底されるよう周知を行い意識啓発に努めるとともに、学校用務員による廃棄物の確認を行った。また、「省エネ」については、静岡市が実施する「市有施設照明設備LED化事業」により校舎や体育館等の照明設備のLED化を実施した。さらに、エアコンや電灯等の消し忘れがないよう周知を行い、省エネに努めた。	A
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①探究活動の成果を地域に還元する。静岡市内教員を対象とする研修（ISEP教員研修）の実現に向け、管理機関との打合せの機会を創出する。独自アセスメントを軸とするカリキュラム開発を行う。6月および2月に生徒発表会を実施し公開する。管理機関との打合せを2回実施する。独自アセスメントの結果を校内教員研修の機会に共有する。国内外の高校との交流を2回以上実施する。 【理数科】 【学校説明】6月の生徒発表会を一般公開し、2月中旬の発表会についても公開を予定している。また、中学生向けの探究講座を実施した。計5回開催し、延べ159名が参加した。さらに、管理機関との打ち合わせを3回以上実施した。海外科学研修先の台湾の高校に加えて、県内の複数の高校と生徒間交流を行った。静岡市教育委員会や市教育センターと連携し、8月に市内中学校教員対象のISEP教員研修を企画したが、津波注意報のため中止となった。独自アセスメントの結果は2月中旬の発表会で共有予定である。	A
		②教材の公開、アーカイブの活用について研究する。教員との議論を通して生徒の主体的な取組を支援し、各種コンクールへの応募等を積極的に促す。振り返りシートを年間を通して実施する。研究内容に関する評価平均値3.0以上、科学系コンクールでの受賞2点以上を目指す。 【理数科】 【学校説明】 クラウド上に科探科1～12期生の研究レポートを保存したデータベースを作成し、15期生（1年）が、次年度に行う課題研究の課題設定に活用している。科探科2年生は1月下旬に校内報告会を行い、生徒アンケートは2月中旬に実施する。科学系コンクールでは、1月13日時点で8件が受賞した。	A
		③ISEP企画委員はSSH運営指導委員会に参加し、指摘された事柄を教員間で共有しISEPの改善に活かしていくことで、探究活動が充実していたと回答する生徒の割合が80%以上になるようにする。 【理数科】 【学校説明】 SSH第Ⅲ期2年目として研究開発に取り組んだ。計3回のSSH運営指導委員会で指摘された事項を教員間で共有し、ISEPの実践・省察・改善につなげた。生徒アンケートは2月下旬に実施する。	A
		④大学等との連携も活用して教員の指導力を向上させる。少人数を活かした授業を展開する。「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員70%の割合が70%以上、少人数授業に対する生徒満足度85%以上になるようにする。 【理数科】 【学校説明】 科探科では探究活動に加えて英・数・理の授業で原則少人数指導を行い、生徒と教員との意見交換を多く行った。域内教員向けのISEP研修は津波注意報により中止となったため、次年度開催したい。	B

A	学校からの広報は、学校・家庭・地域の連携・協働の礎であることから、今後も定期的に行っていただきたい。
A	教職員のもつ集団をまとめる能力や正義感あふれる元気な高校生の存在は、災害発生時の地域の安全・安心に大きく貢献することに繋がるため、今後も継続的に取り組んでいただきたい。
A	生徒達の学びの心を育成するために、整理整頓された環境、安全・安心な環境を維持していただきたい。
A	環境負荷を減らす努力は、持続可能な社会に向けたよい教育となることから、今後も環境整備に取り組んでいただきたい。
A	科学探究科の成果を普通科、地域へ還元し、探究活動を軸として生徒一人ひとりが深く考え、行動する力の育成に取り組んでいただきたい。
A	過去の研究成果を知ることで、現在の自分を見つめ、将来どうあるべきかを考える道標となる。過去・現在を見据え、未来に向けて頑張っていたきたい。
A	知のフロンティアを拓く礎となる思考力・判断力・表現力を育てていただきたい。
A	幸せな人生、より良い社会の実現のために、生涯、学びに向かう力を育成していただきたい。

学校から 経営のまとめ(成果と課題)	
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省指定のSSH事業も含め各教育活動に対し科学探究科・普通科ともに、フィールドワークや校外の方々との関わり合いをもちながら探究的な活動を進めることができた。 ・授業をはじめとした学習活動や探究活動、部活動などのあらゆる場面で、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進することができた。 ・観点別評価の導入に伴い、全職員で授業改善、テストや成績評価を適正に行うことができた。 ・加速度的に情報化社会が進む中で、生徒一人一台端末を活用した授業実践を教員研修などで更に充実させ、情報モラル教育の充実を図る。 ・学校ホームページの更新、中学校訪問等による学校説明会、土曜公開授業日に実施した中学生や保護者を対象とした学校説明では充実した広報活動を行うことができた。加えて、本校の生徒達が作成した学校紹介動画等を活用した広報活動でも中学生や保護者から好評を得ることができた。 ・今後の生徒数は減少傾向であることから継続的に本校の教育活動を整理・分析し、教職員の働き方改革も推進しながら時代に合った教育活動の実践を行うことで本校の魅力化を図る。 	

学校関係者評価委員会まとめ	
SSH指定校の取組や強みを情報発信することで市高の魅力や中学生や地域等の方々に周知していただきたい。そのためにも、市高の魅力を発信するツールの開発に期待する。科学的な思考を身に付けることは、どの職業についても、根拠に基づく考察や論理的主張には不可欠であることから、今後の教育プログラムの開発に期待する。また、今後の課題の明確化と具体的な対策の実施に期待する。	